

鎌倉漁港基本構想検討情報図（漁業者要望案の定性的検証）

【物揚場】港外からの波の影響を受けやすい。

- ・ 港口に近接しているため港外から入る波の影響を受けやすく、利用しにくくなる可能性がある。
- ・ 物揚場利用時に、泊地への出入り、斜路の利用（船揚げ）が困難となる。

必要対策 = 位置の見直し
波除堤の設置検討
検討内容 = 施設の配置計画
静穏度解析

航路と物揚場の係留水面を区分する施設が必要と判断される。

【斜路】一部が波の影響を受けやすい。

- ・ 港口の直背後については、港外から入る波の打ち上げが高くなり、利用が困難となる可能性がある。

必要対策 = 位置の見直し
波除堤の設置検討
検討内容 = 施設の配置計画

港外を直接見通せないような施設配置とすることが望ましいが、見通しが相模湾ではないので影響は比較的軽微と判断される。

【総合評価】

- ・ 航路・港内への砂の堆積に配慮した調整が必要である。
- ・ 南側の施設配置について、波浪へ配慮した線形の調整が必要である。
- ・ 港内の施設配置の見直しと静穏度の精査を行い、利用効率の向上を図ることが望ましい。

【航路】航路が狭い。

- ・ 港口付近で波が乱れ、三角波の発生等船の操縦への影響が懸念される。
- ・ 複数隻の船舶利用が困難である。

必要対策 = 港口の拡幅
検討内容 = 静穏度解析

【漂砂】

- ・ 突堤1の撤去により、航路、港内への砂の堆積が懸念される。

必要対策 = 港口の方向調整
配置案、への変更
検討内容 = 漂砂・浮遊砂解析

波の乱れを抑える消波構造の設置可能範囲と航路利用の最適幅に鑑み、30m以上とすることが望ましい。

【泊地】泊地の面積と形状に問題がある。

- ・ 泊地面積が狭く、複数隻の同時利用、物揚場、船揚場を利用する船舶の泊地内での待機が困難となることが想定される。
- ・ 長方形で奥が狭い泊地形状は、水面の上下動が長時間にわたり継続する特性を示す場合があり、物揚場利用、船揚げ作業が困難となる可能性がある。

必要対策 = 泊地形状の調整
検討内容 = 水面利用計画の精査
静穏度解析

防波堤と護岸線の形状を海側に凸型として、泊地の面積確保と形状見直しを図ることが望ましい。

【護岸】護岸線の形状に問題がある。

- ・ 護岸線の形状が凹型の場合、波が中央に集まり、越波や護岸の被災などを発生させることが懸念される。

必要対策 = 護岸線形状の変更
(直線または凸型)
検討内容 = 護岸線形状計画

計画地の南側面は、最も波が高くなるので、護岸線形状を直線とすることが基本となる。

